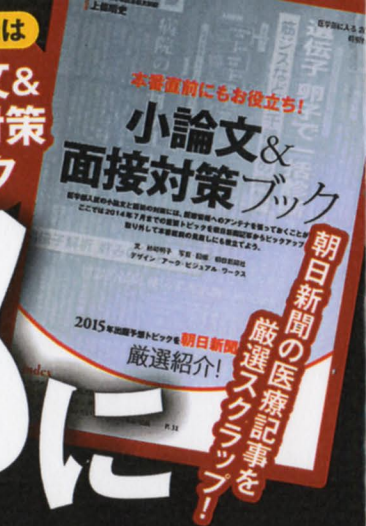


週刊朝日 進学 MOOK

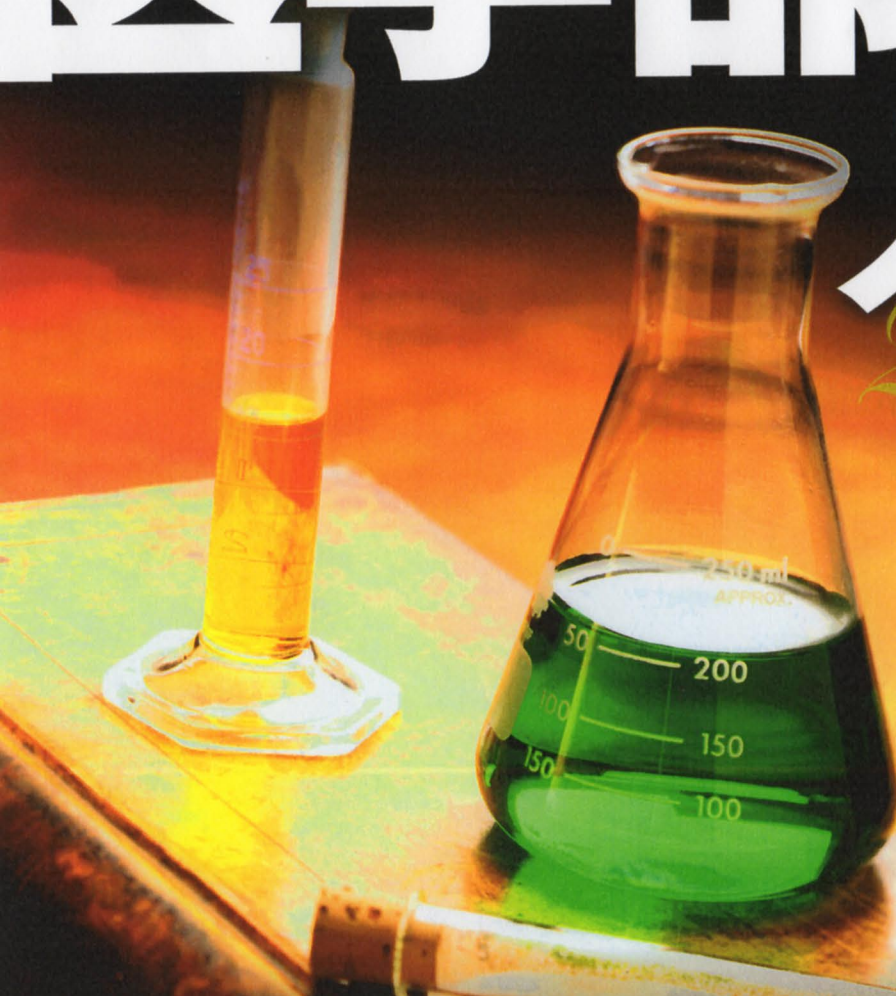
特別付録は

小論文&
面接対策
ブック



医学部に入る

2015



全国
医歯薬
196大学・学部
総覧

中・高選びから入試情報、卒業後の進路まで満載

医師になるための トータルガイド

朝日新聞出版

目指すために必要なこと

もはや「でもしか」の時代ではない開業医

臨床医のうち、将来開業医になる人は、約3〜4割といわれている。医学部をめざすきみも、将来は開業医になっているかもしれない。

かつては、病院勤めが嫌になったとしても、開業してしまえばなんとかなる時代があった。しかし今は、世間の医師を見る目が厳しくなり、どこで開業しても患者が押し寄せるといった状況ではなくな

った。実際、経営に苦しむ開業医は少なくない。また、数は多くないものの、倒産する医療機関があるのも事実。「でもしか」「開業医でもやるか」「開業医しかないか」でうまくいく時代ではないのだ。

開業医として地域医療に貢献し、経営的にも成功するには、何が大切なのだろうか。医師6人が勤務する乳がん専門クリニックの院長・芝英一医師と、痔や便秘の専門医として著名な山口トキコ医師に話を聞いた。

大病院ではできない理想の医療を求めて

開業理由をたずねると、多くの医師が挙げるのが「理想の医療の実現」だ。芝医師もその一人。

「勤務医時代、患者さんを様々な専門職種で支える「チーム医療」を試みましたが、大きな病院の中では理想通りにいきませんでした。また、いくつも診療科があるので、乳がんの検査を毎日ではできず、診断結果が出るまで1カ月近

検診、診断、手術、術後治療まで、一貫した乳がん医療を提供

日本で初めての女性の肛門科専門医として、テレビやラジオでも活躍



大阪プレストクリニック (大阪市)
乳癌外科
しば えいいち
芝 英一 院長
1951年生まれ

1977年大阪大学卒業。大阪大学医学部附属バイオメディカル教育研究センター腫瘍外科准教授、大阪厚生年金病院などを経て、2005年開業。



マリーゴールドクリニック (東京都港区)
肛門科・胃腸科・内科・外科
やまぐち
山口トキコ 院長
1961年生まれ

1988年東京女子医科大学卒業、同大学院修了後、社会保険中央総合病院・大腸肛門病センターに勤務。2000年開業。

メリット

自分のスタイルでの診療が可能
大病院のような組織のしがらみがないので、自分の思うようなスタイルで診療をすることができる。一生懸命働けば、ある程度の収入が得られるし、定年が無いので自分が納得するまで働くことができる。図書購入や学会への参加など、自分の裁量で自由に経費を使うこともできる。

メリット

実践したい医療が迅速にできる
勤務医は組織の一員として仕事をしなければならないため、思うことの100%がいつもできるわけではない。だが、開業医は自分の考える、実践したい医療のすべてが迅速にできる。すべての責任は自分が負うことになるが、その分、やりがいは大きい。収入も勤務医時代の2倍になった。

デメリット

経営者としての気苦労が多い
診療や研究のことばかりでなく、従業員や経営のことも常に考えなければならない。大病院のように代わりになってくれる人がいるわけではないので、休みが取りにくく、学会にも参加しにくい。給与が保証されているわけではないし、万が一自分が病気になってもカバーしてくれる人がいない。

デメリット

医療以外の仕事が多い
個人経営のクリニックでは、医療以外の仕事の負担も大きい。スタッフ（とくに看護師）確保のために募集広告を出したり面接を行ったりと、医療以外のことにエネルギーを使わざるを得ないことが多々ある。技術習得のためにも勤務医時代は大切にすべき。開業医時代より学会活動がたくさんできたはずと後悔している。

くお待たせすることもありません。これが開業を決意した理由です」

開業した今では、すべての検査を一日で終わらせることができるので、温かなチーム医療も

ができ、その日のうちに診断結果を患者に伝えることができるようになった。また、主に乳がんの診療に特化しているので、多くの人に支持される理由と